株式会社ミマキエンジニアリング

インクジェットプリンタ JV3 シリーズ

日常のお手入れのお願い

インクジェットプリンタは非常に微細なメカニズムを持つ精密機械です。特にインクを吐出するヘッドのノズル面は、わずかなホコリや紙粉の付着でも影響を及ぼし、正常な作図結果を得られなくなる可能性があります。
インクジェットプリンタをよりよい状態でご使用いただくために、以下のお手入れを日常行われることをお勧めします。

ご注意

① JV3シリーズは有機溶剤系インクを使用するプリンタです。お手入れの際は、必ず付属のゴーグルと手袋を装着してください。

② 有機溶剤インクは、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面、ヘッド周辺やキャップ、ワイパーなどに、水またはアルコールを付着させないようご注意ください。

③ 本装置（JV3）はインクの吐出安定性を確保するために、長時間使用（出力）しないときは、定期的に微量のインクを吐出（フラッシング）させる必要があります。
長時間使用しないときは、本装置の[ホカンセンジョウ]機能 （取扱説明書５章「長期間使用しない場合」）を実行してから、前面の電源スイッチのみをOFFにしてください。背面の主電源スイッチは ON（｜の状態）およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。

- 本装置を絶対に分解しないでください。感電、火災および破損の原因になります。
- 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電、火災および破損の原因になります。
- お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質、変形する恐れがあります。
- 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プリンタ機構が故障する恐れがあります。

1. 設置環境

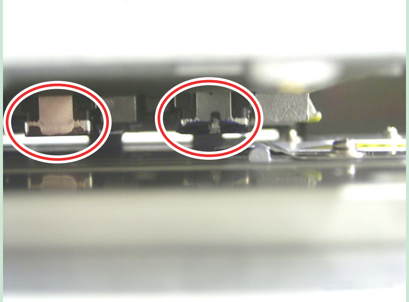
- できるだけホコリの少ない環境で使用してください。扇風機、送風機なども周囲のホコリを舞い立たせる原因です。
- 有機溶剤系インクを使用するため、換気のよい場所に設置してください。
- 使用環境は、+20～+35 ℃、35～65% Rh です。これより低温湿／高温湿でのご使用は避けてください。

2. 日常のお手入れ

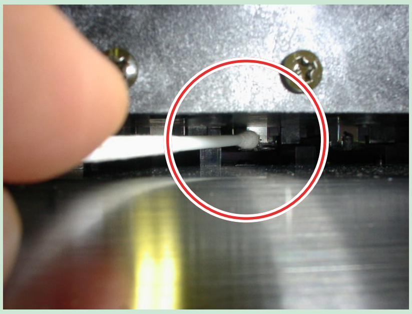
ヘッド周辺

ヘッド周辺は本装置の中で最も汚れがたまりやすく、本装置の動作や作図結果に影響を及ぼす恐れのある個所です。また、ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れには十分な注意が必要です。
スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがあります。綿棒などでこすり落としてください。この際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

ヘッド周辺が汚れた状態



綿棒で清掃する



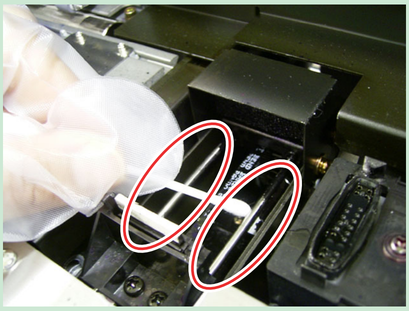
キャッピングステーション　（ 取扱説明書３章「ワイパとキャップのクリーニング」）

キャップ周辺もホコリやインクがたまりやすい場所です。
ご使用のインクに適したメンテナンス用洗浄液を使用し、ヘッドに汚れが付着しないようこまめな清掃をお勧めします。

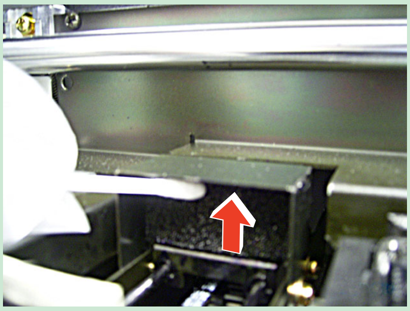
- **SS,SS2,TS インクをご使用の方：メンテナンス用洗浄液 RS（品番：SPC-0336）**
- **MS2,ES3,Eco-HS1 インクをご使用の方：メンテナンス用洗浄液 MS2 キット（品番：SPC-0369）**

キャップ

ワイパのガイド軸



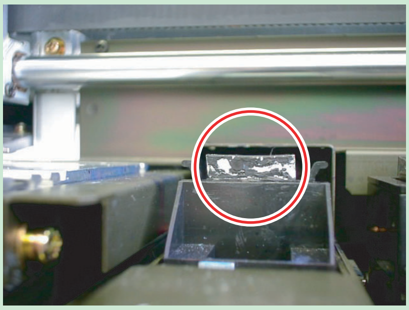
ワイパカバー内側



ワイパー　（ 取扱説明書 ３章「ワイパとキャップのクリーニング」）

ワイパーには、インク、ホコリおよび紙粉などがたまります。ワイパーの状態を確認し、汚れていたら清掃してください。
また、ワイパーが変形していた場合は「取扱説明書５章 ワイパ交換のメッセージを表示したら」にしたがって、新品のワイパーと交換してください。

汚れた状態のワイパー

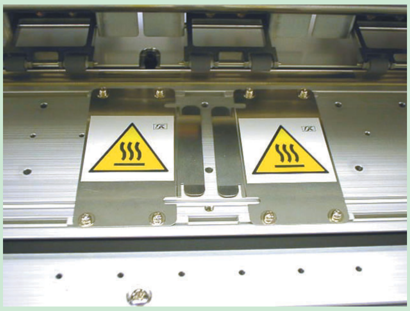


変形したワイパーの例

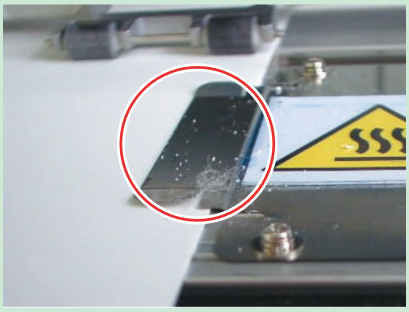
メディア押さえ

メディアのカットくずやホコリがメディア押さえとプラテンの間にたまると､メディアの搬送が正常に行えなかったり､ノズルに付着して正常な作図ができなくなる恐れがあります。こまめに清掃してください。

メディア押さえ

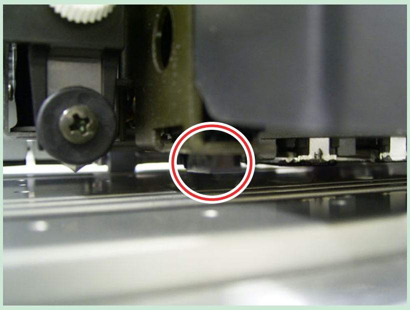


メディア押さえに埃がついた状態



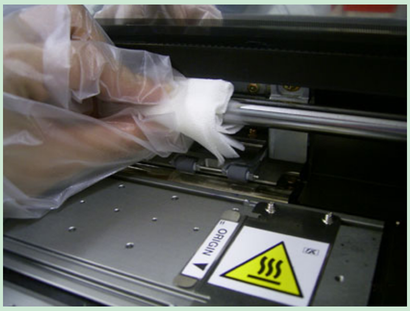
メディアセンサー （ 取扱説明書 3 章「メディアセンサーの清掃）

メディアセンサーにホコリやインクが付着すると、メディアの誤検知の原因になります。柔らかい布でふき取ってください。



Y メイン軸

Y メイン軸の汚れが目立つときやスライダーがスムーズに動かないときは、Y メイン軸にＹメイン軸用オイル(品番：SPC-0364)を塗布してください。オイルを塗布する際は、乾燥した柔らかい布でＹメイン軸の汚れを取り除いてください。目安として１回／月の清掃・塗布をお奨めいたします。



プラテン （ 取扱説明書 3 章「プラテンの清掃」）

プラテンは、ホコリ、紙粉、インク汚れが付着しやすい場所です。こまめに清掃してください。
柔らかい毛のハケや乾いた布で、プラテン面およびプラテンカバーを拭いてください。
メディア押さえ用の溝や、用紙カット用の溝（カッターライン）などは特に汚れがたまりやすい場所です。入念に清掃してください。

外装 （ 取扱説明書 ３章「外装のお手入れ」）

使用環境により､本体の外装には塵や砂埃が付着することがあります。ヘッド移動部へのホコリの進入を防ぐために､柔らかい布に水を含ませ、固く絞ってからふき取ってください。

廃インクタンク （ 取扱説明書 3 章「廃インクが溜まったら）

廃インクタンクが満杯になっていないか確認して、廃インクがあふれないように注意してください。

3. メディアの保管

メディアは、ほこりがつきにくく直射日光が当たらない場所に保管してください。また湿度も嫌いますので高温多湿な場所での保管は避けてください。

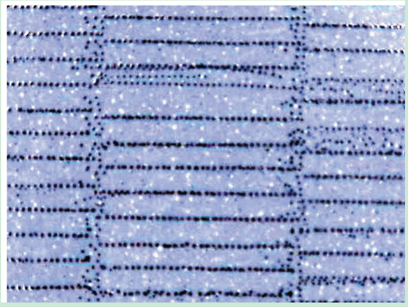
4. インクカートリッジの保管

直射日光があたらず、湿度の高くない場所に保管してください。
精細な製品のため、カートリッジを落下させたりぶつけたりしないでください。
インクカートリッジに装着されている基板（右写真）は、汚したり、静電気放電させないでください。

5. 作図不良の例

ホコリなどを原因として発生するヘッド（ノズル）の吐出不良が、作図に及ぼす代表的な例を示します。
このような状態で使用しないように、出力前や出力中に定期的にノズルの状態を確認してください。
ノズルの状態は、本装置の「テスト作図」で確認できます。（取扱説明書２章「ノズル詰まりを確認 / 解消する」）

飛行曲がり



ノズル抜け

ボタ落ち

しぶき

6. ノズル吐出不良の回復方法

本装置を長時間使用しなかった場合や環境温度によっては、ノズルの吐出が不安定になる場合があります。
この場合、ノズルを回復させるために以下の方法があります。

① **日ごろのお手入れ**
本書に記載されている、各所のお手入れを行ってください。

② **ノーマルクリーニング**　（☞ 取扱説明書２章「ノズル詰まりを確認／解消する」）
前述のお手入れを行った後、取扱説明書の手順に従ってノーマルクリーニングを実行。
クリーニングとテスト作図を繰り返し、ノズル抜けが無くなる事を確認。

③ **キョウリョククリーニング**　（☞ 取扱説明書２章「ノズル詰まりを確認／解消する」）
数回ノーマルクリーニングを繰り返してもノズル抜けがなくならない場合、クリーニングモードをキョウリョククリーニングにして同様の操作を実行。

④ **ノズル洗浄**　（☞ 取扱説明書３章「洗浄キットでクリーニングする」-「ノズルの洗浄」）
これまでの手順を実施してもノズル抜け等が解消されない場合には、ノズル洗浄を行ってみてください。
１分間のノズル洗浄を行った後、クリーニングとテスト作図を行ってください。

⑤ **ノズル洗浄**　（☞ 取扱説明書３章 「洗浄キットでクリーニングする」-「ノズルの洗浄」）
上記のノズル洗浄でノズル抜けがが解消されない場合は、放置時間を5分間に設定して再度洗浄／クリーニング／テスト作図を実施してください。

これまでの操作でノズル抜けが回復しない場合には、弊社または本装置をお買い上げいただいた販売店にサービスコールをしてください。

7. サプライ品のご案内

クリーニングワイパキット（品番：SPA-0116）
メンテナンス用洗浄液 RS（品番：SPC-0336）
メンテナンス用洗浄液 MS2 キット（品番：SPC-0369）
Ｙメイン軸用オイル（品番：SPC-0364）

メモ

お問い合わせ

テクニカルコールセンター

TEL: **0120-106-114** (フリーダイヤル)

受付時間: **9:00 ～ 18:00**

JV3 シリーズ FAQ

http://www.mimaki.co.jp/japanese/sg/inkjet/jv3/jv3_faq.php

© 2008 MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.

D201102-13-20062008

IT